

包括外部監査の結果報告書

保育所事業及び幼稚園事業について

平成16年2月

姫路市包括外部監査人 田村 一美

(5) 運営費の効率性の検討

①市立幼稚園の決算の推移

推移表より園児一人当たり人件費は平成元年度には年間270,659円でありましたが、平成14年度には537,542円と2倍近くに膨れあがっています。これは、人件費が937,292千円から1,134,214千円と1.210倍になっていることもさることながら、園児数が3,463人から2,110人と3分の2以下に減少したことが大きな要因となっています。

運営費は建設費を除くと、1,025,286千円から1,237,354千円と、1.207倍であり、ほぼ人件費の増加率と一致しますが、建設費を除く運営費に占める人件費の割合が

市立幼稚園決算の推移

(単位:千円)

年度	一般会計	教育費	幼稚園費 A	Aの内建設 費 B	運営費 C(A-B)	園児1人の 運営費 C/F(円)	Aの内人件 費 D	園児1人の 人件費 D/F(円)	Cの内人件 費率D/C (%)	運営費 E(C-D)	園児1人の 運営費 E/F(円)	園児数 F(人)
平成元年度	131,614,601	20,545,232	1,481,622	456,336	1,025,286	296,069	937,292	270,659	91.4	87,994	25,410	3,463
平成2年度	145,317,534	18,833,967	1,414,495	347,587	1,066,908	324,584	977,979	297,529	91.7	88,929	27,055	3,287
平成3年度	155,912,097	19,561,469	1,247,044	126,507	1,120,537	367,510	1,028,981	337,481	91.8	91,556	30,028	3,049
平成4年度	158,401,007	25,678,907	1,264,118	83,653	1,180,465	411,742	1,085,109	378,482	91.9	95,356	33,260	2,867
平成5年度	160,128,776	25,365,175	1,315,031	87,915	1,227,116	454,151	1,131,266	418,677	92.2	95,850	35,474	2,702
平成6年度	163,828,177	21,516,985	1,349,296	102,395	1,246,901	466,829	1,149,108	430,216	92.2	97,793	36,613	2,671
平成7年度	159,508,963	19,890,613	1,383,376	110,452	1,272,924	494,339	1,166,531	453,022	91.6	106,393	41,318	2,575
平成8年度	167,771,343	19,412,232	1,463,288	146,578	1,316,710	529,650	1,208,734	486,216	91.8	107,976	43,434	2,486
平成9年度	177,305,426	20,659,603	1,566,690	209,731	1,356,959	538,262	1,246,325	494,377	91.8	110,634	43,885	2,521
平成10年度	176,507,425	22,313,696	1,558,789	187,459	1,371,330	570,437	1,257,523	523,096	91.7	113,807	47,341	2,404
平成11年度	186,450,842	20,873,336	1,489,344	163,447	1,325,897	582,300	1,223,901	537,506	92.3	101,996	44,794	2,277
平成12年度	183,539,272	20,184,989	1,448,370	144,157	1,304,213	559,748	1,193,229	512,115	91.5	110,984	47,633	2,330
平成13年度	178,887,082	19,245,158	1,392,453	118,031	1,274,422	593,030	1,172,326	545,522	92.0	102,096	47,509	2,149
平成14年度	183,008,905	19,619,500	1,377,902	140,548	1,237,354	586,424	1,134,214	537,542	91.7	103,140	48,882	2,110
対元年度	1.390	0.955	0.930	0.308	1.207	1.981	1.210	1.986		1.172	1.924	0.609

※1 園児数は、各年度5月1日現在の就園児数

91.70%であることを考えると、当然と言えます。すなわち、幼稚園事業の経費の最大たるものは人件費です。園児は減少するのに、人件費は増加しているという現象は、効率性の観点からは、かなり非効率であると言えます。

②私立とのコスト比較

前記の決算書は、市立幼稚園53園の合計であります。各科目別に幼稚園別の数値は出ておりません。従って、幼稚園1園当たりの決算書は無い状態です。

一方、私立幼稚園については、私立幼稚園連合会姫路地区協議会に加入している10幼稚園に対して市から補助金を出しており、園児数及び決算書、予算書を提出してもらっています。しかし、市立幼稚園の各園のコストが不明であるため、各幼稚園別の市立及び私立幼稚園のコスト比較ではなく、市立幼稚園全体(平均)と私立幼稚園全体(平均)のコスト比較を行いました。但し、協議会に加入していない私立幼稚園の数値は把握しておりません。

年齢別園児数

平成14年5月1日現在

	3歳児	4歳児	5歳児	合計	定員	就園率	バス	園児一人 当たり人 件費	園児一ヶ 月当り納 付金	1園当た り5歳児 数
私立幼稚園計	402	590	447	1,439	1,480	97.2	9/10	309,663	22,104	44.7
市立幼稚園計		104	2,006	2,110			×	537,542	5,900	37.1
総合計	402	694	2,453	3,549	1,480					

これを見ますと、私立幼稚園は全体ではほぼ定員数近くの幼児を保育していることとなります。1園当たりの5歳児の人数は市立幼稚園が平均37.1人、私立幼稚園で平均44.7人となり、私立は約1.2倍の5歳児を保育していることとなります。また、3、4歳児を含めての数値ですが、園児一人当たり人件費が市立幼稚園537,542円に比べて私立幼稚園は309,663円、一方保育料は一ヶ月あたり市立幼稚園5,900円、私立幼稚園22,104円となっています。特徴的なこととして、私立幼稚園は、3～5歳児を預かる関係上、保育時間も長く、給食も提供されます。

また、10園の内、9園迄がスクールバスを擁しており、子供を預ける人にとって利用しやすいサービスを提供していると言えます。

③人件費について

14年度決算書より、人件費のみ再掲しますと、以下のようになります。

	14年度決算	人数	一人当たり平均(年額)
A. 報酬給与費	939,555,276円	96人	9,787,034円
B. 非常勤嘱託給与費	87,159,322円	53人	1,644,516円
C. 臨時教員給与費	107,499,142円	62人	1,733,857円
計	1,134,213,740円	211人	

Aは正規職員であり、53園に配置されています。平均年齢は47歳。この数値は姫路市が負担する共済費も含まれており、教員の額面給与とは異なります。

Bは用務員業務パート職員であり、時給725円。8:00～14:45の1日6時間勤務で、1年契約で雇用されています。

Cは正規職員で不足する分を補う教員の給与であり、年間の延べ人数745人を12ヶ月で除した数値を人数としております。

幼稚園の教員は教員免許を持った公務員であります。昨今の園児数の減少により、ここ数年新たな採用は行われておりません。

また、幼稚園の正規職員については、勤務時間は8:15～17:00（休憩45分で1日8時間）と決まっており、超過勤務手当は発生しません。園児の保育時間は14:00迄で、その後3時間は残務整理・翌日の準備等に当てられていると考えられます。市立幼稚園は、小学校等と同様に夏休みがありますが、教員は夏休みも出勤しています。

ここで、幼稚園の教員が園児と実際に接している時間を考えてみますと、園児が幼稚園に在園しているのは8:30～14:00で5.5時間。教員の出勤時間は8:15～17:00なので、園児に接していない時間は規定通りなら1日平均3時間強となります。これを、若干のずれを考慮して、1日2.5時間とします。教員の年間出勤日数は239日で年間勤務時間は1,912時間。その内、園児の夏休みは24日ありますので、幼稚園の教員が園児と接していない時間は年間合計で、

$$24日 \times 8時間 = 192時間(夏休み期間) \dots \textcircled{1}$$

$$(239日 - 24日) \times 2.5時間 = 537.5時間(夏休み期間以外) \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} = 729.5時間であり、$$

教員の年間勤務時間の内、園児と接している時間の割合は、

$(1,912時間 - 729.5時間) \div 1,912時間 = 0.6184$ となり、
実に在園時間の62%しか園児に接していないこととなります。また、幼稚園53園で教員96人の内、専任園長である18人はクラスを受け持っておらず、教員1人が園児と接している平均時間は更に少ないことになり、昨今の園児数の減少により教員にはかなりの余裕があると推察されます。

既に述べてきたように、姫路市の幼稚園事業においては、歳入及び歳出の事務の手續き等には問題はみられないものの、市の行う事業としての効率性の観点からすれば、極めて非効率であるといわざるを得ません。極端に減少した園児数に対して、園児が多かった時と同じ設備、同じサービスでは非効率が生じるのも無理はないと言えるでしょう。

(6) 意見

これまで述べてきたように、市立幼稚園には私立幼稚園及び保育所と大きく違う点として以下のことが挙げられます。

- ① 保育料が安い。
- ② 保育時間が短い。
- ③ 給食がない。
- ④ スクールバスがない

① は長所ですが、②から④については、市民（利用者）にとっては、利用しにくい要因となっている事が推察できます。それ故、園児数は減少しているといわざるを得ません。

しかし、これについては、保育所というサービスを提供している市にとっても承知の上のことです。それ故、「計画」で、3、4歳児保育及び市立幼稚園の統廃合がすでに提言されている訳ですが、現状は、計画の実行はなかなか進んでいません。最大の問題は人件費ですが、同等以上のサービスを提供している私立幼稚園及び保育所よりも非効率である最大の原因が人件費であるなら、何らかの手を打たないのは、問題です。

市立幼稚園の非効率性を解消するには、1園当たりの園児数を増やすしかありませんが、そのためには、統廃合を推進し、遠方に通うことになる園児のためにスクールバスを用意する、あるいは公立の保育所と統合する、等のサービスの提供及び効率性の増大を早急に考えるべきであると思われます。